

# 畑作・野菜・花き生産情報 第1号（要約版）

令和6年4月18日  
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ この時期の農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めよう！
- ◎ 小麦の生育は、平年並から平年より早まっています。適期の追肥と病害虫防除で収量・品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は、平年並から平年より早まっています。適期の追肥とさび病、春腐病等の防除を徹底しよう！
- ◎ 施設内の温度変化が激しい時期です。適正な管理により高品質な花きの生産に努めよう！

## ○小麦

- 1 幼穂形成期は平年より2日遅～10日早くなっており、おおむね3月末に到達している。  
草丈は平年並～大幅に長く、莖数は地点によるばらつきが大きくなっている。
- 2 2回目の追肥は止葉抽出期から出穂期に生育量をみて適切に行う。
- 3 うどんこ病と赤かび病の適期防除に努める。

## ○にんにく

- 1 生育は、平年並か平年より早まっている。
- 2 りん片分化期は、平年より3～5日早く到達し、4月14日となっている。
- 2 追肥は、りん片分化期に到達したら適期に行う。
- 3 さび病、春腐病の防除を徹底するとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

## ○ながいも

- 1 春掘り作業は平年並の3月中旬から始まっているが、一部では2月下旬から3月上旬の降雪の影響で始まりが10日程度遅れている地域もある。芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。
- 2 トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。
- 3 栽培法に合わせて種いもを準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月中旬に植付けする。

## ○トンネルだいこん、にんじん

- 1 だいこんの発芽は良好である。
- 2 好天時はポリトンネル内を換気し、適正な温度管理に努める。

## ○トマト、メロン

- 1 苗の生育は順調である。
- 2 定植に向けて徐々に気温を下げて苗を順化する。ただし、降霜が予想される時や低

温時には、二重被覆等で保温に努める。

3 土壤水分が好適な時期にマルチングを行うなど、ほ場準備を計画的に進める。

### ○夏秋ギク

- 1 8月上旬出荷の作型は、平年並の4月中旬から定植作業が始まっている。苗の生育は順調であり、病害虫の発生は見られていない。
- 2 親株のハウスは、日中の気温25℃以上にならないように換気する。
- 3 移植栽培の場合は、挿し芽を定植2週間前に行う。

### ○トルコギキョウ

- 1 春定植における苗の生育は、一部ばらつきがあるもののおおむね順調であり、病害虫は一部にキノコバエ類の発生が見られる。また、越冬栽培の作型で、一部に土壤病害の発生が見られる。定植作業は3月下旬から始まり、順調に進んでいる。
- 2 は種直後は発芽適温である20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。
- 3 老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。

※農ナビ青森 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に本文を掲載しています。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

◎農薬は適正に使用しましょう。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

☆青森県総合防除計画を策定しました☆

県では、植物防疫法に基づく国の「総合防除基本指針」に即して、化学農薬のみに頼らない病害虫防除を行うための計画「青森県総合防除計画」を定めました。農作物の高品質生産とコスト低減に向けて、みんなで総合防除に取り組みましょう。



<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140>

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 成田真樹 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木村一哉
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480、内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481、内線 5076
報道監	農林水産部 次長 栗林豊 内線 4967